

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



異文化の中で

愛媛県経済労働部産業雇用局企業立地課 齋藤 和輝

私が北京に赴任したのは2019年4月のことでした。当時の中国の経済成長は著しく、街並みは日々変貌を遂げ新たなサービスやモノが続々と登場するなど、急速な変化と発展を肌で感じた一方、高層ビルが林立するなか、胡同（フートン）と呼ばれる伝統的な路地裏では昔ながらの生活が息づいていたことが印象的でした。

フレア北京事務所での業務

フレア北京事務所では、日本の自治体と中国の地方政府との交流促進や日本の地域の魅力発信などの業務に携わりました。特に、愛媛県と遼寧省および大連市との友好協力協定締結などに向けた県ミッション団をアテンドしたことと、北京国際園芸博覧会の日本展示館で「日本の夏の風物詩」をテーマにしたブースを出展したことは、大きな人生の糧となりました。

中国での仕事は、イベントや会議などの中身が直前まで決まらないことや当日の突然な変更が多く、当初は日本での感覚が抜けず苦勞しましたが、今振り返れば対応力が鍛えられた良い経験でした。

互恵的關係

中国で暮らしていると、当時のデジタル化の進展は特に目を見張るものがありました。キャッシュレス決済の普及はもとより、スマートフォン一つで完結する行政サービスのDX化は、日本の自治体が参考とすべき点多いと感じました。こうした情報を本誌で執筆したのも良い思い出です。

一方、環境問題や都市と農村の格差など、中国が抱える課題も目の当たりにしました。これらの課題は日本の自治体も直面してきたものであり、日本の自治体と中国の地方政府が互いの経験を共有し、解決策を模索することの重要性を学びました。

文化や人の深さに触れる

プライベートでは、故宮や万里の長城など歴史的な名所を訪れる機会も得ることができました。悠久の歴史を感じさせるこれらの場所は、近代化された北京の街とは対照的で中国の文化の奥深さを感じさせるものでした。

現地の人々との交流もかけがえのない経験です。言葉の壁はあったものの、彼らの温かさや歓待の心に触れ、中国に対する理解が深まってきました。この経験は、日中の地方自治体間の交流を支援する上で、非常に貴重なものとなりました。



成都大熊猫繁育研究基地にて撮影したパンダ

おわりに

中国との関係は常に変化していますが、地方レベルでの草の根交流は、両国関係の安定的な発展に欠かせません。今後も、中国で学んだことを生かしながら、愛媛県と中国の懸け橋となるよう努めていきたいと思いを。

プロフィール・ほか

●フレア在籍時の所属
2018年4月～2019年3月 交流支援部交流親善課
2019年4月～2021年3月 北京事務所